

《学校教育目標》		《重点目標（中長期的目標）》	
<p>幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをとおして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する</p>		<p>【ひとつづくり(豊かな情操を育む人間形成)】</p> <p>1 生命の尊厳を自覚し、真理と正義を愛する知識・教養・創造性豊かな人間の育成に努力する。</p> <p>【ものづくり(付加価値の創造)】</p> <p>2 独創(Originality)・想像(Imagination)・工夫(Device)・努力(Effort)の精神を尊重し、工業・商業両分野における“ものづくりの拠点校”としての役割を果たす。</p> <p>【学校づくり(充実した学びの場の構築)】</p> <p>3 安心・安全な学校をめざすとともに、環境教育や総合技術高校としての専門教育の推進等による特色ある教育システムを構築する。</p>	
領域	項目	具体的な教育活動	成果と課題
ひとづくり	1 自他を大切にす心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動を通して自己理解を深める取り組みを行い、自己肯定感や他人を思いやる気持ちを育てることにより、命を大切にす教育を推進する。 メディアリテラシー、人権平和教育等に関する教育活動を推進する。 自主的な生徒会活動や積極的なクラブ活動への取り組みを行う中で、地域との繋がりや他者を思いやる気持ちを持った豊かな人間性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校人権平和学習では映画「ドリーム」を鑑賞し、差別を乗り越えてひたむき夢を追い求め、未来を切り拓く前向きな生き方を学ぶことができた。 職員向けのCAPプログラムや交通安全講話等の研修会を実施し、生徒理解や安全教育についての知識を深めることができた。次年度以降も計画的にこのような研修を行い、研鑽に努めていきたい。 文化祭や球技大会などの生徒会活動では充実した学校生活を送れるよう3年生を中心に新たな取り組みにチャレンジする機会を設けた。活動を通して生徒が主体的に取り組み、自他を思いやりながら信頼と協力の態勢を築いていく良い経験をさせることができた。
	2 基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において、職員全体による働きかけから挨拶・服装・髪型などに対する生徒自身の意識を向上させるとともに、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の充実を図る。 生徒会役員を中心とした朝のあいさつ運動を通して、学校全体が心を通わせ、規則正しい生活が送られるように方向付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に貢献できる人材を育成するためにも基本的な生活習慣の確立は重要であり、今後も力を入れていきたい。 年間を通して落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組める生活環境が整ってきている。服装に関しては、今年度末で移行期が終了し、来年度から全学年が新制服に統一されるため、身だしなみの一層の向上が期待できる。 生徒会役員による挨拶運動は、心身共に生活のリズムを整えていくための重要な活動と位置づけて取り組んできている。このような全校生徒への声かけが自発的に行われるような環境を整えていきたい。
	3 得意分野の伸長(卓越性の伸張)	<ul style="list-style-type: none"> 個々の意欲や特性ならびに能力を活かした活動ができるような環境や指導体制を整えるとともに、活動を広く発信することにより活動意欲を喚起する。 課題研究をはじめ様々な授業で積極的に外部との連携をはかり、21世紀型スキルの1つであるコミュニケーション力の伸長をはかる。 授業、クラブ活動、行事等をリンクさせ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力を身につけさせる。 キャリアデザインに繋がる資格・検定・コンテストの情報提供を行うとともに、生徒の実態に合わせた講習会や補習授業を実施する。 終業式等の全校集会時に難易度の高い資格取得や検定合格を表彰し、資格取得の意識づけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業においてグループワークやディベート等を組み入れ、生徒自らが課題を発見し解決していく授業実践に取り組んだ。 3年生の課題研究では地元企業からの手厚い協力支援をいただき、充実した取り組みを行うことができた。また、研究発表会を通してその成果を地域に積極的に発信することができ、地域活性化への貢献という観点においても高く評価していただくことができた。 (機械工学科)課題研究の作品を活用して地域イベントに参加し、コミュニケーション力の伸長に大いに成果があった。(電子機械工学科)企業の指導によりシーケンスプログラミングと制御対象の設計製作を行い、高度な技術を身につけることができた。(電気電子工学科)職業能力開発協会と連携してのシーケンス制御学習を行い、技能検定に生徒が合格した。また、GOTを用いたシーケンス制御についても外部から指導を受けることにより技術力を向上させた。電気工事士については長期間の補習によって力をつけ、多くの生徒が試験に合格できた。(社会基盤工学科)産学官の連携により、生徒がものづくりの過程を知り、技術を身につけることができた。(建築学科)地域の建築士との連携により、地域の課題を見つけ建築的に解決する授業に取り組み、課題解決する力を身につけることができた。(商業科)地域の方との交流を重視し、当事者意識を持って地域課題の発見と解決のために様々な活動を行うことができた。 全校集会等の場で高度取得資格を表彰をすることによって、取得意欲の喚起を図った。
ものづくり	1 基礎学力の定着(高校教育の共通性確保)	<ul style="list-style-type: none"> 本校生徒に必要とされる学習内容等について検討する。また、専門科と普通教科の情報交換と現状把握を行う。 学習習慣を身につけさせ、学ぶ意欲の向上を図る。 地域社会の課題に関心を持たせ、課題解決を通し学び続ける力の育成を図る。 公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に学び、成長できる資質や能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を目標に各教科で取り組みを行った(国語科)全学年で漢字語句のドリル学習を取り入れるとともに、各学年の目標を1学年「正確に書く」2学年「語彙の獲得」3学年「実践」に設定して適切な教材の選定を行った。また、スマホ使用による語彙力不足の現状の打開を課題として更に指導を工夫改善していきたい。(数学科)1、2学年で習熟度別少人数授業を実施し、基礎学力の獲得と進路希望を意識した発展的な学習の両方を組み入れた授業実践に取り組んだ。(英語科)語彙や基礎となる文法事項を定着させられるような授業実践に取り組んだ。英語の基礎力定着を狙って、実用英語検定の全員受検を実践した。 「基礎学力の確実な習得に向けたPDCA」の実施に伴い、今年度は学力把握のためのテストを年3回実施した。結果の分析と教科指導へのフィードバックを課題に具体策を検討していきたい。 専門学科においても学科の基礎学力定着を目的として長期休業明けの実力テストで年度全体の復習確認テストを実施した。 電子機械工学科の授業では専門科目の学習内容と数学・物理など普通科の学習内容を関連づけた取り扱いを積極的に取り入れる実践を行った。 県のICT環境整備事業により普通教室に電子黒板とタブレットPCが配備され、機器の特性を活かした授業が各科で開始された。
	2 専門力の伸張	<ul style="list-style-type: none"> 学科の教育指導方針に沿い、職業人としての心の育成、資格・検定取得のための指導、地域人教育での社会人基礎力の向上に取り組む。 実験実習や課題研究をとおして、文献調査・思考力・分析力など専門分野への探究心を育む。 本年度から文科省の地域と協働した高校改革事業(プロフェッショナル型)に指定され、「専門性の追求」「課題解決力の育成」「協創力の育成」の観点から専門教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省から選定を受けた「地域との協創による高等学校教育改革推進事業」では、本校独自の地域課題研究の実績を土台に地域人材の育成を目的とした多様な取り組みを各学科で開始した。事業初年度である今年度は、工業系、建設系、商業系の3つのコンソーシアムを地域との協働によって構築し、外部識者によるカリキュラム開発の支援を受けながら講演会、授業支援、事業所見学、フィールドワーク、資格取得支援等を実施した。次年度以降も更に充実した取り組みが行える協力連携の態勢を築いていく。 各専門科において大学の出前授業の導入や、最新の技術革新を実習テーマに取り入れる等新たな取り組みなどを行った。
	3 総合技術教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定教科「総合技術」において地元企業や地域の要素を取り入れるなど、内容を充実させ学習効果の向上を図る。また、学科横断科目としての諸課題を改善する。 他の総合技術高校との連携を深め情報を共有することにより、総合技術教育の深化、発展を図る。 全校課題研究発表会の充実を図り、外部への告知方法やPRについて工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ホンモノ」にふれる機会を大切にし、感受性を磨き、より高い目的意識を持たせるために、各分野の専門家を講師に招聘して講演会を行った。 総合技術科目「商品開発実践」では地域社会とのつながりを大切にし、ワークショップなどを積極的に取り入れた探究的な学びを通して協調性や責任感の育成を図った。また、次年度はこの科目の実践をより深化させた「地域活性プロジェクト」講座の開講を予定しており、そのための準備研究を開始している。 総合技術高校研究会を開催し、各校の学科横断授業の取り組み実践について情報交換を行い今後の課題について討議を行った。 課題研究発表会の成果や先進的な授業の取り組みを各学科のHPで公開し、活動状況の発信を行った。
	4 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動をとおして「集団の中の自分、自分を取り巻く集団」という意識を持たせ、人との関わり合いを大切にす態度を育む。 職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを抱えた生徒の日常生活を見守り、状況に応じてチームでの支援体制を整える。またSC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)をはじめとした専門機関と連携を図り、校内外での支援体制を強化する。 定期的にSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し、生徒の自己理解を深め、コミュニケーション能力や社会的自立心の育成に努めるとともに、命を大切にす教育を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で計画的に進路講話・ガイダンスを行い、進路情報の提供が行われ、将来の進路に対する意識を高めることができた。また学力向上に向けて国数英理の補習を長期休業や学期毎に実施した。また、SPI対策はクラス単位で実施した。 生徒の実態把握に努め、個々の希望に沿った進路指導を行うことができた。 専門高校の進路実現のためには、基礎学力とともに、専門力、さらには課題解決力、主体性、協働性等の社会人としての基礎力の向上が必要である。主体的な課題解決の学習を積極的に推進しこれらの力の強化を図りたい。 大学進学予定の3年生対象に本校卒の大学生から大学生活の様子や進学に対する心構え等を伝える進学ガイダンスを行った。 2学年では生徒全員を対象にインターンシップを実施し、職業観の形成と社会人としてのマナーの習得、さらに積極的な進路選択について考えさせる良い契機となった。また、ポートフォリオの活用を促進するための振り返りの機会を定期的に設定し、自らの活動記録をデータとして蓄積していくことに努めた。 1学年は、進路希望調査に基づき、懇談会などで個別指導を行い、学校説明会への参加を呼びかけ、進学情報の収集を働きかけた。日々の生活が進路につながっていることを集会で伝えることをし進路に対する意識づけをおこなった。 国語科では3学年の進路指導の一環として、3年必修「現代文」の授業内で「志望理由マスターノート」を教材に用いての添削指導を導入し、進路に対する意識づけ等大きな効果があった。次年度も指導時間の確保を図りながら継続していきたい。
学校づくり	1 安心・安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を高め、事案発生の場合に迅速で適切な対応を組織的に行うためのシステムづくりをする。 様々な教育活動をとおして「集団の中の自分、自分を取り巻く集団」という意識を持たせ、人との関わり合いを大切にす態度を育む。 職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを抱えた生徒の日常生活を見守り、状況に応じてチームでの支援体制を整える。またSC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)をはじめとした専門機関と連携を図り、校内外での支援体制を強化する。 定期的にSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施し、生徒の自己理解を深め、コミュニケーション能力や社会的自立心の育成に努めるとともに、命を大切にす教育を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> クラブや生徒会等の諸活動において、周囲と協力して目的に向かう取り組みの姿勢が多く見られた。引き続き自己肯定感や充実感が得られる充実した活動が行われるよう適切な指導助言をしていく必要性を感じる。 全校集会時での注意喚起や係発生の「生徒指導だより」から安全で安心できる学校環境づくりに取り組んできたが、7月に近隣河川で重大な死亡事故が起きてしまった。全職員で危機管理意識を高め、学校内外の安全指導にあたっていく態勢づくりを目指したい。 発生事案や生徒が抱える問題などに対して学校・家庭・SC・SSW・医療機関が連携を行いながら迅速に対応を行った。 大規模な自然災害時に確実な安否確認を行うために、本校で運用している一斉メール配信による確認演習を今年度内に2回実施した。メール登録率の一層の向上を図りたい。
	2 環境美化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会と職員の連携を強化し、日常の清掃活動やごみの分別収集について立案・実施・指導し、校内の清掃美化の徹底を図る。 ISO委員会と連携し、地域の清掃活動の推進と発展を図る。 環境問題に対する意識向上を目指し、美化委員会およびISO委員会の自主的な取り組みを職員全体で支援する。 PTAによる環境整備作業を通して安全で快適な学習環境を保護者の協力を得て実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の清掃活動への取り組みは年々向上してきており、校内環境は整いつつあるが、ゴミの減量化や分別についてはさらに意識を高めていく必要がある。 生徒の美化意識の向上を目標に、毎日の清掃活動、伝統のOIDE校外清掃活動や部室清掃の定期的な実施等に生徒会全体で取り組んだ。
	3 組織的な学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 総合技術高校として発足してから6年が経過し、新たな取り組みの方向性に沿いながら運営上の諸課題の解決に取り組む。 地域と協働した高校改革推進事業において、学校全体の協力体制を構築していく。 総合技術高校としての特色の一つでもある学科横断科目などの多面的な学びを大切にしながら、社会や産業界の新たな変化と高校改革推進事業に対応できる教育課程編成について検討を行う。 安全運転、わいせつ行為、体罰、個人情報について、研修等で未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の編成に向け、本校のグランドデザインをベースに現在検討をすすめている。次年度も計画的にこの検討を進め、本校の将来構想を具体化した教育課程の編成を目指したい。 次年度「地域との協創による高等学校教育改革推進事業」においては、初年度の取り組みを総括し次年度の計画立案に活かすとともに、事業内容を校内外に定期的に発信し、職員間の情報共有を高め全職員で取り組む体制を確立していきたい。